

a 学校教育目標	仲間とともに輝け三中 ～果敢に挑戦する生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 社会や世界の状況に対応し、よりよい社会を創るために挑戦する生徒が育つ学校
----------	------------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価						改善方策		学校関係者評価							
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント					
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ						
確かな学力	◎主体的・対話的 深い学びの創造 ○豊かな表現力と協働性の育成 (パブリックスピーキング)向上	○個別最適な学びに向けた授業改善(選択肢と自己決定) ○批評的思考力や相手意識を持った表現力(パブリックスピーキング)向上	○選択肢と自己決定のある授業づくり ○振り返りの充実(R80) ○学習者用端末の積極的活用	・選択肢と自己決定の場(月1回以上) ・R80の実施率100% ・授業交流週間の実施 ・教育研究推進に係る校内研修実施	80%	100%	100%	125%	A	・個別最適な学びに向けた授業改善、選択肢と自己決定の場を設定する実践を進めている。主体的に学ぶ力を育成する取組を継続する。 ・R80で自分の考えを整理し、論理的に表現する力を身につけさせるため振り返りの充実にも努めている。 ・予定された授業交流週間、授業研究は計画通り実施できている。指導案作成、事前事後協議を通じて、授業改善に取り組んでいる。	・授業や学校行事等において、選択肢と自己決定の場を設定し、授業の振り返りを共有することで、生徒が主体的に活動し充実感や達成感、自己肯定感が得られる取組を継続する。 ・授業交流等を通して、生徒実態や学力課題を分析共有し、授業改善を図る。 ・主体的・対話的・深い学びに迫る授業研究を継続し授業改善に取り組んでいく。	○			・取組指標が、どのような成果につながったのかを検証する必要があります。授業力の向上と改善が、どのように「確かな学力」につながったのか明らかにすると、次の改善策及び数値目標につながります。 ・AIに頼ることが溢れる世の中にあつて表現力の育成は非常に大切だと思います。継続してください。				
				生徒アンケート ①「授業がよくわかる」の質問に対する肯定的評価 ②「Chromebookを使った学習はよくわかる」	85%	90%	86%	101%	A	・生徒間交流や自分の考えを発言するなど主体的に活動する授業により、意欲的に取り組む生徒の姿が多く見られるようになった。 ・Googleclassroomでの課題やレポート、まとめ、振り返り、アンケート等、活用場面が増えた。家庭学習においても効率的、効果的活用を継続する。						・授業づくり徹底5項目、パブリックスピーキング、振り返りの充実を継続する。 ・単元構成等の工夫を行い、学習意欲の向上、学習内容の理解と定着に繋げていく。 ・情報担当教諭、ICT支援員の授業支援、生徒のICT研修参加によりICT活用方法の実践力を高め、授業改善に繋げる。 ・授業の振り返りやディレリアイフでの書く活動での肯定的評価を継続し論理的な自己表現力を育成する。	○		・主体的に学ぶ力を育成することは、とても大切なことでもあり難しいことでもあると思います。研究による成果を期待しています。 ・学習内容の理解と定着に繋げるためにも、振り返りの充実にも動いてください。 ・近年、読み・書き・計算の定着が低くなっているように感じます。読書やドリル学習等に取組む時間確保を検討してください。
				③「学校生活のきまり」の質問に対する肯定的評価 ④「Chromebookを使った学習はよくわかる」 ⑤「ディレリアイフ記入(5行以上)」	85%	90%	87%	88%	98%	B									
・「学校生活のきまり」の見直しに係る生徒等を含めた協議	90%	87%	92%	85%	100%	A	・学校行事や学校生活において、縦割り集団による活動を進めることで異年齢交流を行い、ピア・サポート活動の充実を促した。 ・「学校生活のきまり」を見直し、生徒総会で生徒の意見を集約し協議を行うことを説明した。今後も協議を継続する。 ・三中スタンダードの徹底が図れるように、毎月頭髪整頓点検を行い、社会の規範を理解し、社会の一員として適切な行動をとれるよう啓発を行った。	・生徒が自ら立案し実行できる「三中チャレンジクラブ」の企画、運営を実施する。 ・生徒会執行部の新旧交代時に活動の理念や方針を継承し、自分達の主体的行動で学校生活を改善・発展させる。 ・「学校の決まり」の見直しを継続し、三中生としての誇りと自覚を持たせる。 ・三中スタンダードの徹底を図るため、生徒会からの啓発活動を計画、実施する。	○		・「学校が楽しい」が増える活動と、「学校のきまり」が少しずつ近づぐ活動の計画をお願いします。 ・「学校が楽しい」が上昇していることは評価できます。学校の努力と工夫が見られます。 ・生徒が主体的に活動する姿が校内で増えてきているのでしょうか。生徒会や委員会活動、学校行事で生徒自らが立案し実行できる環境づくりを進めてください。								
○自主的・自立的な生徒会活動の推進 ・縦割り集団によるピア・サポート活動の充実 ・生徒が主体となる学校行事(三中チャレンジカップ等) ・「学校生活のきまり」を改善する等、主権者教育の促進 ○三中スタンダードの徹底及び質の向上 ・挨拶、返事、言葉遣い、無言排除	・生徒アンケートにおいて「学校が楽しい」「友達と話し合い、考えを広めていける」	90%	87%	92%	85%	100%	A					・長期欠席生徒が年々増加傾向にある。毎週の不登校等生徒支援会議等生徒実態把握や情報共有に努め、個別の支援について担任、学年を中心に検討、協議することができた。 ・SSW、SC、SSR、三原市教育支援センター等と連携し支援方法の具体化を図ることで、多様な居場所づくりを進めた。 ・校区内小学校との連携により、入学後の生徒個々の実態に則した支援に生かすことができた。	・不登校等生徒支援会議、月1回の教育相談委員会を実施し、情報共有と支援の具体化、関係機関連携を継続する。 ・個別の支援において、生徒、保護者の願いや思いに寄り添う支援を行う。 ・SSRやふれあい教室等で個に応じた居場所づくりを進め、心の安定と個の成長に繋がる環境整備を継続する。 ・支援Coによる校区内小学校訪問を継続し、児童理解の情報共有による中間ギャップの解消に努める。	○		・市内各校で不登校児童生徒への取組成果は、不登校児童生徒の減少及び欠席日数の減少で見取れるほかにも考えます。 ・不登校の要因が多々ある中、個別支援の取組を引き続きお願いします。 ・不登校対策のひとつとして、集団づくりも必要だと思います。生徒同士のより良い関係性が深まる授業や行事等の改善を進めてください。			
○不登校の未然防止に向けた取組	・不登校等生徒支援会議の開催 ・不登校等児童生徒支援Coによる校区内小中連携	毎週	毎週	毎週	100%	A	・各より等ホームページでの情報発信を定期的に行なった。 ・学校だよりや学年通信、進路通信等のすぐる配信を定期的に行なった。 ・月1回の服務研修を主任主事が各研修内容を企画し、計画的に実施することができた。	・引き続き、学校だより等で行事予定・生徒の活動の様子をHPに掲載する。 ・メール配信(すぐる)による学校だよりや進路情報等の情報発信を継続する。 ・不祥事防止に向けて計画的に服務研修を実施する。	○		・働き方改革は、令和8年度教委が進める「三原市立学校の教職員に関する業務管理・健康確保措置実施計画」の実現が大切だと考えます。今までの業務改善にはなかつた業務改善の見方・考え方を参考にした取り組みを期待しています。								
○開かれた学校づくりと教職員の資質向上	○教育活動の積極的な情報発信 ○法令を遵守した教育活動	○便りやHPを活用した学校教育の発信 ○すぐるの積極的活用	・ホームページの更新 ・すぐるによる発信	月1回 月3回	月1回 月3回	月1回 月3回	100% 100%					A A	・引き続き、学校だより等で行事予定・生徒の活動の様子をHPに掲載する。 ・メール配信(すぐる)による学校だよりや進路情報等の情報発信を継続する。 ・不祥事防止に向けて計画的に服務研修を実施する。	○		・働き方改革は、令和8年度教委が進める「三原市立学校の教職員に関する業務管理・健康確保措置実施計画」の実現が大切だと考えます。今までの業務改善にはなかつた業務改善の見方・考え方を参考にした取り組みを期待しています。			
○教育の質を高めるための環境づくり	○「指針」に基づいた学校の取組を推進	○定時退校日の完全実施 ○組織的・計画的な学校運営による効率化 ○生徒に向き合う時間の確保	・超過勤務月60時間以内 ・新たな業務改善	80%	85%	83%	104%	A	・超過勤務60時間以内を目標に掲げ、定時退校の呼びかけを積極的に行うとともに、超過勤務の状況を職員で共有し業務の分担等の見直しを行った。 ・運動会、学習発表会等の実施内容について再検討を行い、プログラム等の内容精選を行った。	・毎週水曜日の定時退校日の実施を継続し、各分掌、学年、教科等の業務分担を行い、計画的業務遂行に努める。 ・働き方改革推進に向けて、計画的に業務を進められるよう、実施した行事の成果と課題を明確にし、次回行事に反映させる。	○		・働き方改革と情報発信がリンクした活動を継続してください。 ・不祥事防止に向けての計画的研修の継続をしてください。異年齢ギャップ等あるかもしれませんが、コミュニケーションによりマインドセットの変化が行われ、ストレスが軽減される職員集団を目指してください。						
働き方改革	○教育の質を高めるための環境づくり	○「指針」に基づいた学校の取組を推進	・超過勤務月60時間以内 ・新たな業務改善	80%	85%	83%	104%	A	・超過勤務60時間以内を目標に掲げ、定時退校の呼びかけを積極的に行うとともに、超過勤務の状況を職員で共有し業務の分担等の見直しを行った。 ・運動会、学習発表会等の実施内容について再検討を行い、プログラム等の内容精選を行った。					・毎週水曜日の定時退校日の実施を継続し、各分掌、学年、教科等の業務分担を行い、計画的業務遂行に努める。 ・働き方改革推進に向けて、計画的に業務を進められるよう、実施した行事の成果と課題を明確にし、次回行事に反映させる。	○		・働き方改革と情報発信がリンクした活動を継続してください。 ・不祥事防止に向けての計画的研修の継続をしてください。異年齢ギャップ等あるかもしれませんが、コミュニケーションによりマインドセットの変化が行われ、ストレスが軽減される職員集団を目指してください。		

【: 自己評価 評価】
 A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100
 C: 60% (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【: 学校関係者評価 評価】
 I: 自己評価は適正である。 R: 自己評価は適正でない。
 H: 分からない。